第 2 章　八戸市町内会における問題の所在

2.1 はじめに

本章では町内会とその活動全般について、町内会を活動と会長の二つの資源＝リソースの総体とみなし、町内会を活性化させるためのインプット→リソースの要因を探ることにする。具体的には、既存の青森市、弘前市、秋田市、山形市、仙台市、福島市、いわき市、盛岡市など町内会・町内会調査の再分析を行い、4 つのセグメントを示した松本・吉原（2009）、松本（2010）、松本（2011）、松本（2012）と同様な操作を八戸市調査にも行う。

地域名	人口（日＋外）	世帯数（日＋外）	町内会数
市川地域	12,587	5,606	35
下長地域	28,040	11,915	24
豊崎地域	1,851	711	6
八戸駅周辺地域	10,579	4,524	12
中央地域	67,021	31,747	144
根城・田面木・新都市	27,209	11,553	26
湊・白銀・鮫地域	53,506	23,381	122
南浜地域	3,125	1,243	8
大館地域	19,958	8,798	28
館・是川地域	9,217	3,898	35
南郷区	5,774	2,193	29
合計	238,867	105,569	469

図 2-1　八戸市 11 地域の地図（八戸市提供資料等より筆者作成。地区境界が正確でない部分もある）

ちなみに本調査により八戸市内 21 地区 469 町内会を対象にアンケート調査を実施し、283 町内会の有効回答が得られている。詳細は後述するが、本章では 21 地区ではなく、『八戸市都市計画マスタープラン』（平成 16 年 3 月）による 11 地域の分類を用いることにする。概要は図 2-1 のようになる。

地域別の回答構成比であるが、市川 6.7%、下長 5.3%、豊崎 0.7%、八戸駅周辺（上長）3.2%、中央（三八城 7.1%、柏崎 4.9%、吹上 5.3%、長者 7.1%、小中野 6.7%）31.1%、根城・田面木・新都市（根城）7.1%、湊・白銀・鮫（湊 6.7%、白銀 12.0%、鮫 6.4%）25.1%、南浜 1.1%、大館 7.1%、館・是川（是川 3.2%、館 2.5%）5.7%、南郷区（島守 2.5%、中野 1.4%、市野沢 2.1%、鳩田 0.7%）6.7%、不明 0.4%であった。

2.2 町内会をリソースで捉える

以下で論じる町内会をリソースで捉える考え方と変数の操作方法について、松本・吉原（2009）を用いて説明する（これらの記述は松本（2011）と同じである）。

		活動個数		
		多	中	少
組織・団体個数	多	1	3	6
	中	2	5	8
	少	4	7	9

		活動個数×組織・団体個数		
		多	中	少
加入世帯数	多	1	3	6
	中	2	5	8
	少	4	7	9

図 2-2-1 セグメントの考え方

まず、町内会の「活動個数」と「組織・団体個数」を「多」「中」「少」の 3 つに分けて、図 2-2-1 の左側にある 9 つのセグメントをつくる。それを「活動個数×組織・団体個数」の合成変数とみなし、「多」「中」「少」をそれぞれ「1 or 2 or 3」「4 or 5 or 6」「7 or 8 or 9」として、この変数と「加入世帯数」によるマトリックスを作成する（図 2-2-1 の右側）。この「活動個数×組織・団体個数」×「加入世帯数」における「多」「中」「少」をそれぞれ「1 or 2 or 3」「4 or 5 or 6」「7 or 8 or 9」にして、以下の 3 つの活動リソース・セグメントとする。本章の分析であるが、まず全体の数値を捉え、次に各セグメントの特徴を確認していく。その際の基準であるが、▲▼：1%有意、□□：5%有意、↑↓：10%有意、□□：20%有意において全体との差があるとして解釈する。

(1) 町内会活動リソース

まずは活動リソース分布から確認する。八戸市の活動リソースは、多：24.7%、中：25.1%、少：49.5%、不明：0.7%である。

次にリソース別でみた町内会発足時期であるが（表 2-2-1）、全体では 1940 年代以前に発足した町内会が四分の一強である（27.6%）。リソース別で特徴をみると、「多」で「60 年代」（27.1%）、「中」で「70 年代」（18.3%）、「少」は「40 年代以前」（35.7%）が多かった。

表 2-2-1　町内会の発足した時期

	調査数	町内会発足時期							
		1940年代以前	1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	わからない
合　計	283	27.6	11.7	16.6	10.6	9.9	2.8	3.2	17.7
多	70	↓ 17.1	11.4	△ 27.1	10.0	∴ 15.7	2.9	4.3	∵ 11.4
中	71	22.5	15.5	▽ 7.0	△ 18.3	14.1	4.2	5.6	12.7
少	140	△ 35.7	10.0	15.7	∵ 7.1	↓ 5.0	1.4	1.4	↑ 23.6

それでは現在、町内会はどのような目的があるのだろうか（表 2-2-2）。「住民同士の親睦」（94.3%）が一番多く、次いで「生活上の問題を共同解決」（77.0%）であり、八戸市における町内会の位置づけは、他市と同様に住民同士の交流により問題解決を図る場とみなされている。リソース別でみると、「多」の町内会で特徴的なのは「行政等への働きかけ・陳情」（71.4%）である。他の市と比べて、活動リソースが多い町内会ほど目的としている項目はさほど多くなく、少なくとも「多」と「中」にはあまり差がみられないことがわかる。

表 2-2-2　町内会の主な目的

	調査数	現在の主な目的							
		住民同士の親睦をはかるため	町内の生活上の問題を共同解決するため	行政等との連絡・調整のため	行政等への働きかけ・陳情のため	共有地、共有施設の管理のため	マンションや団地の管理組合として	その他	何もしていない
合　計	283	94.3	77.0	72.8	59.4	19.1	1.4	1.1	1.1
多	70	∴ 98.6	∴ 84.3	75.7	△ 71.4	20.0	2.9	1.4	1.4
中	71	97.2	81.7	73.2	∴ 67.6	22.5	1.4	1.4	−
少	140	↓ 90.7	↓ 70.7	70.7	▽ 49.3	16.4	0.7	0.7	1.4

八戸市の町内会への世帯加入率について確認する（表 2-2-3）。「全戸加入」は 11.0%であり、弘前市と比べると三分の一程度である。加入率の全体平均（注：回答者ベースで集計）は 77.8%である。

リソース別で多いのは、「中」で「50～70%未満」（31.0%）であり、「少」は「全戸加入」（15.7%）となっており、全戸加入町内会で活動リソースが少ない傾向にあるのは他市と同様の結果であり、加入への強制力が大きくなるにつれて、町内会活動への意欲が低下することを示すのだろうか。

表 2-2-3　町内会の世帯加入率

	町内会への世帯加入率								世帯加入率	
	調査数	全戸加入	90%以上加入	70%以上～90%未満加入	50%以上～70%未満加入	30%以上～50%未満加入	30%未満	わからない	調査数	平　均
合　計	283	11.0	26.1	26.9	22.3	8.1	0.7	4.9	269	77.84
多	70	∵ 5.7	∵ 18.6	30.0	27.1	10.0	1.4	7.1	65	▽ 73.08
中	71	7.0	22.5	22.5	↑ 31.0	∴ 12.7	−	4.2	68	▽ 73.24
少	140	↑ 15.7	∴ 31.4	27.1	↓ 15.7	∵ 5.0	0.7	4.3	134	▲ 82.35

町内会を構成する建物・土地をみると（表 2-2-4）、全体で一番多いのは「一戸建て」（84.8%）、次いで「集合住宅（家族向け）」（27.9%）である。リソース別の特徴は、「多」が「集合住宅」（40.0%）であり、一方の「少」では「事業所」（12.1%）や「商店」（10.0%）であった。

表 2-2-4　町内会における建物･土地の特色

	調査数	建物・土地の特色							
		一戸建て	集合住宅（家族向け）	田畑	集合住宅（単身向け）	事業所	商店	工場	その他
合　計	283	84.8	27.9	15.9	10.2	7.8	6.4	0.7	3.5
多	70	84.3	△ 40.0	12.9	12.9	∵ 2.9	↓ 1.4	−	−
中	71	84.5	32.4	15.5	11.3	∵ 2.8	4.2	−	5.6
少	140	85.0	▽ 20.0	17.9	8.6	↑ 12.1	↑ 10.0	1.4	4.3

町内会内の人口変化をみると（表 2-2-5）、「大いに＋やや増加」は 17.7%と 2 割近い数値である。リソース別では「多」が「やや増加」（27.1%）、「中」は「大いに増加」（7.0%）であり、弘前市以外と同様に、新たな構成員の流入が町内会活動の活性化につながっていることを意味している。

表 2-2-5　町内会における人口変化

	調査数	最近10年間くらいの人口の変化				
		大いに増加	やや増加	あまり変化はない	やや減少	大いに減少
合　計	283	3.2	14.5	24.7	41.0	13.1
多	70	5.7	▲ 27.1	24.3	▽ 28.6	10.0
中	71	↑ 7.0	16.9	21.1	42.3	8.5
少	140	−	▽ 7.1	26.4	∴ 47.1	16.4

新旧住民の割合については（表 2-2-6）、八戸市全体では「古くからの地付き世帯がほとんど＋古くからの地付きの世帯のほうが多い」（62.6%）であり、リソース「多」では「外からの新しい世帯がほとんど」（18.6%）と多い一方で、「古くからの地付き世帯がほとんど（12.9%）」は全体よりも少ない。このことから八戸市も弘前市と同様に「古くからの地付き世帯」が多い町内会よりも、「外からの新しい世帯」が多い町内会は活動リソースが「多」となっていることがわかる。構成員にある程度の流動性はあった方が、町内会の活動が活発になるといえよう。

表 2-2-6　町内会における新旧住民の割合

	調査数	新旧住民の世帯数の割合				
		古くからの地付きの世帯がほとんど	古くからの地付きの世帯のほうが多い	同じくらい	外からの新しい世帯のほうが多い	外からの新しい世帯がほとんど
合　計	283	29.7	32.9	10.6	14.8	11.0
多	70	▼ 12.9	38.6	8.6	∴ 21.4	△ 18.6
中	71	25.4	29.6	∴ 15.5	19.7	7.0
少	140	▲ 40.7	32.1	9.3	↓ 9.3	7.9

町内会運営上の困りごとをみると（表 2-2-7）、他の市とほぼ同様に「役員のなり手不足」（81.3%）、「会員の高齢化」（72.4%）、「行事への住民の参加が少ない」（67.1%）、の三項目が、弘前市と比べても高い結果になっている。リソース別の特徴をみると、「多」は「行事への住民の参加が少ない」（81.4%）が多い。「中」では「未加入世帯の増加」（49.3%）、「少」は「他の町内会との交流が少ない」（18.6%）となっており、八戸市の町内会においては活動リソースにより困りごとの質が異なるといえる。

表2-2-7　町内会における運営上の困りごと

	調査数	町内会の運営上困っていること							
		町内会の役員のなり手不足	会員の高齢化	町内会行事への住民の参加の少なさ	未加入世帯の増加	行政以外の団体との関係（負担金等）	町内会のルールを守らない住民の存在	加入世帯の家族構成が把握できない	予算の不足
合　計	283	81.3	72.4	67.1	35.7	25.4	20.5	20.1	19.4
多	70	81.4	71.4	△ 81.4	41.4	∴ 32.9	24.3	∴ 27.1	14.3
中	71	84.5	70.4	69.0	△ 49.3	19.7	∴ 26.8	19.7	16.9
少	140	79.3	75.0	▽ 59.3	▽ 26.4	25.0	∵ 15.7	17.1	23.6

	調査数	町内会の運営上困っていること							
		行政との関係（依頼の多さ等）	集会施設がない／狭い／不便	日中、留守の世帯が多い	他の町内会との交流が少ない	まとめ役がいない、力不足	世代間のズレ	運営のための経験や智恵が足りない	構成世帯数の少なさによる障害
合　計	283	19.1	18.0	13.8	13.4	10.2	8.5	7.4	5.3
多	70	24.3	17.1	18.6	10.0	8.6	∴ 12.9	5.7	2.9
中	71	19.7	14.1	∴ 19.7	∵ 7.0	8.5	7.0	5.6	2.8
少	140	15.7	20.7	↓ 8.6	↑ 18.6	12.1	7.1	9.3	∴ 7.9

	調査数	町内会の運営上困っていること							
		住民間の摩擦	単身世帯数の多さによる障害	伝えるべき情報が伝わっていない	どんな情報を伝えればよいかわからない	家族世帯数の多さによる障害	町内会の財産をめぐるトラブル	役員内のあつれき	困っていることはない
合　計	283	4.2	3.9	2.1	1.4	1.1	0.7	0.4	1.8
多	70	7.1	∴ 7.1	2.9	－	∴ 2.9	1.4	－	－
中	71	2.8	2.8	1.4	1.4	－	－	－	1.4
少	140	3.6	2.1	2.1	2.1	0.7	0.7	0.7	2.9

次に町内会の活動内容について確認する（表 2-2-8）。この変数は活動リソースに組み込まれているため、リソースの多寡による差をみることにする。

八戸市の町内会において実施している活動で多いのは、「街灯等の設備管理」（91.5%）、「ごみ処理収集協力」（86.6%）「地域の清掃美化」（82.0%）といずれも弘前市よりも高い８割以上であり、これらの項目が上位なのは、先の弘前市だけでなくいわき市、福島市や盛岡市等の他市の調査結果と同様な傾向である。リソースによる差が大きいものをみると、「公園・広場の管理」（45.0pt）、「集会所等の施設管理」（31.4pt）、「高齢者福祉」（23.6pt）等であり、

特に施設管理といったハード面で活動リソースによる格差がみられた。

表 2-2-8　町内会活動内容

	調査数	町内会で実施している活動							
		街灯等の設備管理	ごみ処理収集協力	地域の清掃美化	公園・広場の管理	集会所等の施設管理	資源・廃品回収	雪かたづけ	高齢者福祉
合　計	283	91.5	86.6	82.0	44.9	39.6	37.5	34.6	25.4
多	70	↑ 97.1	▲ 98.6	△ 91.4	▲ 70.0	▲ 60.0	↑ 48.6	△ 48.6	▲ 40.0
中	71	94.4	85.9	85.9	△ 59.2	40.8	35.2	33.8	29.6
少	140	↓ 87.1	▽ 80.7	▽ 75.0	▼ 25.0	▼ 28.6	32.9	↓ 27.1	▽ 16.4
差（多－少）		10.0	17.9	16.4	45.0	31.4	15.7	21.5	23.6

	調査数	町内会で実施している活動							
		私道の管理	交通安全対策	防犯パトロール	青少年教育・育成	学童保育の支援	防火パトロール	三社大祭	乳幼児保育の支援
合　計	283	24.0	20.5	19.4	12.0	11.7	9.5	6.7	4.2
多	70	30.0	▲ 35.7	▲ 32.9	▲ 27.1	14.3	▲ 24.3	8.6	4.3
中	71	23.9	19.7	22.5	11.3	15.5	9.9	5.6	7.0
少	140	21.4	▽ 12.9	▼ 10.0	▽ 5.0	8.6	▼ 2.1	6.4	2.9
差（多－少）		8.6	22.8	22.9	22.1	5.7	22.2	2.2	1.4

町内会で組織的に実施している行事をみると（表 2-2-9）、「町内会の総会」が 94.3%と一番多く、大きく離れて「新年会・忘年会」（37.8%）や「食事会・飲み会」（32.2%）となり、他は３割にも満たない実施率であるのは弘前市と同様である。リソース別での差が特に大きいのは「新年会・忘年会」（36.4pt）、「盆踊り・夏祭り」（32.2pt）であり、これも弘前市と同じように季節性のあるイベントになっている。

表 2-2-9　町内会の実施行事

	調査数	町内会で組織的に実施している行事							
		町内会の総会	新年会・忘年会	食事会・飲み会	ラジオ体操	盆踊り・夏祭り	花見	冠婚葬祭	研修会・講習会
合　計	283	94.3	37.8	32.2	26.1	23.0	20.1	19.1	17.0
多	70	∴ 98.6	▲ 60.0	↑ 42.9	32.9	▲ 42.9	▲ 32.9	20.0	↑ 25.7
中	71	∴ 98.6	43.7	35.2	∴ 33.8	28.2	21.1	15.5	18.3
少	140	▽ 90.0	▼ 23.6	∵ 25.7	↓ 19.3	▼ 10.7	↓ 13.6	20.7	∵ 12.1
差（多－少）		8.6	36.4	17.2	13.6	32.2	19.3	−0.7	13.6

	調査数	町内会で組織的に実施している行事						
		神社祭礼	運動会	その他	運動会以外の体育活動	宿泊旅行	映画上映・演劇鑑賞	成人式
合　計	283	13.8	13.4	12.4	9.5	8.8	2.1	0.0
多	70	14.3	15.7	14.3	∴ 14.3	8.6	4.3	0.0
中	71	∵ 8.5	15.5	12.7	11.3	∴ 14.1	2.8	0.0
少	140	16.4	11.4	11.4	6.4	6.4	0.7	0.0
差（多－少）		−2.1	4.3	2.9	7.9	2.2	3.6	0.0

町内会の予算をみていくと（表 2-2-10）、回答者ベースでは年間収入は 114 万円、支出は 116 万円と弘前市と比べて 70 万近く少ない。リソース別では、弘前市をはじめとした他市の調査においてリソースの多寡と予算規模に相関があるように、八戸市でも同様の傾向（収入では多 : 173 万円、中 : 124 万円、少 : 75 万円、支出では多 : 175 万円、中 : 125 万円、少 : 75 万円）となっている。

表 2-2-10　町内会予算

	収入（総額）		支出（総額）	
	調査数	千円	調査数	千円
合　計	234	1141.61	230	1157.14
多	64	▲ 1730.56	64	▲ 1746.48
中	61	1236.49	60	1245.38
少	108	▼ 745.44	105	▼ 754.27

次に町内会で構成される組織を確認しよう（表 2-2-11）。全体で一番多いのは「子供会育成会」（17.0%）であり、次いで「婦人会」と「老人クラブ」（13.1%）である。これらは弘前市より、10pt 程度低くなっている。リソース別にみたときに、特に差が大きいものは「子供会育成会」（47.9pt）、「婦人会」と「老人クラブ」（40.0pt）となっており、「ヒト」の要素が強い組織はリソース多寡に依存するものと考えられる。

表 2-2-11　町内会構成組織

	調査数	町内会で構成されている組織・団体							
		子供会育成会	婦人会	老人クラブ	民生・児童委員会	体育協会	消防団（分団）	防犯協会	社会福祉協議会
合　計	283	17.0	13.1	13.1	6.7	6.4	5.3	3.9	3.2
多	70	▲ 50.0	▲ 41.4	▲ 42.9	▲ 17.1	▲ 17.1	↑ 10.0	▲ 10.0	↑ 7.1
中	71	12.7	8.5	▽ 4.2	7.0	4.2	7.0	4.2	4.2
少	140	▼ 2.1	▼ 1.4	▼ 2.9	▽ 1.4	▽ 2.1	↓ 2.1	↓ 0.7	↓ 0.7
差（多－少）		47.9	40.0	40.0	15.7	15.0	7.9	9.3	6.4

	調査数	町内会で構成されている組織・団体							
		少年補導委員会	青年団	商工会・商店会	農協・漁業	氏子会・檀家組織	生協	講	その他
合　計	283	2.8	1.1	1.1	1.1	1.1	0.4	0.0	0.4
多	70	▲ 10.0	▲ 4.3	1.4	1.4	▲ 4.3	∴ 1.4	0.0	∴ 1.4
中	71	–	0.0	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0
少	140	∵ 0.7	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
差（多－少）		9.3	4.3	0.7	0.7	4.3	1.4	0.0	1.4

町内会独自の情報発信であるが（表 2-2-12）、「役員会等に関する情報」（90.5%）、「国や自治体が発行する広報誌の内容」（81.6%）、「防犯に関する情報」（71.0%）、「防災にかんする情報」（70.7%）が 7 割以上である。リソースが多いところほど様々な情報を発信しているの

は弘前市と同様な傾向であり、「多」では「役員会」(88.7%)、「防犯」(82.9%)、「防災」(84.3%)、「婦人会・老人会」(68.6%) に関する情報発信を積極的に行っており、情報発信がリソース形成に影響を与えていることがわかる。

表2-2-12　町内会情報発信状況

	調査数	町内会でどんな情報を加入者に伝えているか							
		役員会、例会、総会に関する情報	国や自治体が発行する広報誌の内容	防犯に関する情報	防災に関する情報	婦人会、老人会などに関する情報	まちづくり全般に関する情報	冠婚葬祭に関する情報	セールなどの近隣の買い物情報
合　計	283	90.5	81.6	71.0	70.7	45.9	44.9	14.8	1.8
多	70	↑ 97.1	81.4	△ 82.9	△ 84.3	▲ 68.6	47.1	14.3	1.4
中	71	88.7	77.5	69.0	71.8	50.7	49.3	15.5	2.8
少	140	88.6	84.3	66.4	↓ 63.6	▼ 32.9	42.1	15.0	1.4

市からの広報に関する連携への考え方をみると（表 2-2-13)、「当然のこととして積極的に協力している」(48.1%) と約 5 割となっている。ちなみに八戸市においては、活動リソースの多寡が広報配布や依頼業務への積極性にあまり関係がないようである。

表 2-2-13　市からの広報配布・依頼業務

	調査数	自治体等の広報配布や依頼業務の対処			
		当然のこととして積極的に協力している	果たすべき義務として協力している	最低限のことのみ協力している	原則として協力していない
合　計	283	48.1	29.0	13.4	1.3
多	70	50.9	28.1	15.8	−
中	71	45.5	36.4	▽ 3.6	1.8
少	140	47.5	26.3	16.9	1.7

情報伝達や共有に関する町内会長の現状の評価はどうだろうか（表 2-2-14)。全体でみると、「十分に伝達・共有されている」(24.0%)、「伝達や共有されている」(54.8%) と 8 割程度が現状の伝達・共有を評価しているのは弘前市と同様である。また、リソース別ではさほど差がみられず、これはどのレベルの町内会でもある程度の情報伝達や共有がなされていることを意味しているのだろうか。

表 2-2-14　情報伝達や共有の評価

	調査数	現状の町内会での情報伝達や共有への考え			
		十分に伝達や共有されている	伝達や共有されている	あまり伝達や共有されていない	まったく伝達や共有されていない
合　計	283	24.0	54.8	14.8	0.7
多	70	22.9	55.7	18.6	－
中	71	26.8	49.3	12.7	－
少	140	23.6	57.1	14.3	0.7

これまで町内会における基礎的な活動やそれを裏付ける組織形成、予算規模などを活動リソースの視点から概観してきたが、次は「防犯」、「防災」、「高齢者福祉」の視点による地域づくりへの取組状況について確認する。

防犯の組織的な取組として多いのは（表 2-2-15）、「防犯灯・街路灯の整備」（92.2%）、「小中学校との情報交換」（63.3%）、「防犯パトロールの実施・強化」（61.5%）が 6 割以上の項目である。因みに「声かけの実施」（32.5%）について、いわき市、秋田市や仙台市の結果でみられたようなリソースの多寡による実施率の差が存在する（多：51.4%、中：29.6%、少：25.0%）のは弘前市とは異なる結果である。活動リソース「多」では、「防犯灯・街路灯の整備」（98.6%）、「小中学校との情報交換」（77.1%）、「犯罪発生状況の情報提供」（61.4%）などであり、他の市と同様に防犯への取組についても活動リソースの形成に大きく依存していることがわかる。

表 2-2-15　防犯に向けた組織的取組

	調査数	安全・安心なまちづくりのために取り組んでいるもの							
		防犯灯・街路灯の整備	小中学校との情報交換	防犯パトロールの実施・強化	防犯活動に関する情報提供	犯罪発生状況の情報提供	防犯活動の組織化の支援	防犯キャンペーンの実施	声かけの実施
合　計	283	92.2	63.3	61.5	45.9	44.2	35.0	34.3	32.5
多	70	△ 98.6	△ 77.1	68.6	52.9	▲ 61.4	∴ 44.3	38.6	▲ 51.4
中	71	91.5	66.2	63.4	47.9	45.1	39.4	∴ 42.3	29.6
少	140	∵ 89.3	↓ 55.7	57.1	42.1	▽ 35.0	∵ 28.6	∵ 28.6	↓ 25.0

	調査数	安全・安心なまちづくりのために取り組んでいるもの						
		防犯講習会の参加・開催	公園などの見晴らしなどの改善	不審者に遭遇したときの対応	防犯活動のリーダー育成	防犯マップの作成	護身の知識・技術の提供	監視カメラの設置・整備
合　計	283	27.9	25.4	24.0	23.0	19.4	8.5	6.7
多	70	△ 40.0	▲ 41.4	▲ 38.6	△ 35.7	22.9	△ 15.7	8.6
中	71	31.0	25.4	26.8	25.4	18.3	5.6	4.2
少	140	↓ 20.7	▽ 17.9	▽ 15.7	▽ 15.7	18.6	6.4	7.1

続いて大震災に向けた組織的な取組をみてみよう（表 2-2-16）。多いのは「避難する場所を決める」（54.8%）、ついで「高齢者世帯等の状況把握」（44.5%）、「消火器等の準備を呼びかけ」（42.4%）が上位三項目であり、同項目で 2～3 割程度であった弘前市に比べて高い実施率である。

さらにリソース別にはさほど差異がなかった弘前市に比べて、八戸市では「多」と「少」において多くの項目で有意に全体との差が確認できる。そして、「とくに何もしていない」では「多」が 14.3%に対して、「少」は 32.9%と 20pt に近い差がある。いずれも東日本大震災以降に実施した調査であるが、災害の少ない弘前市と沿岸部で被災した八戸市の違いがここにもあらわれている。

表 2-2-16　大震災に向けた組織的取組

	調査数	大地震等が起こった場合に備えて、どんな対策をとっているか						
		近くの学校や公園等避難する場所を決めている	高齢者世帯・子どもの状況把握につとめている	消火器、等を準備しておくよう住民に呼びかけている	防災訓練や講演に積極的に参加している	高齢者・子ども・障がい者の安全について	食料品や飲料水の備蓄を住民にすすめている	住民間の連絡方法等を決めている
合　計	283	54.8	44.5	42.4	42.4	31.8	29.3	26.1
多	70	▲ 74.3	△ 57.1	▲ 58.6	△ 57.1	△ 44.3	△ 42.9	△ 37.1
中	71	56.3	45.1	↑ 52.1	39.4	32.4	∴ 38.0	28.2
少	140	▽ 44.3	∵ 38.6	▼ 30.0	∵ 36.4	∵ 25.7	▼ 18.6	↓ 19.3

	調査数	大地震等が起こった場合にどんな対策をとっているか				
		防災セミナーを開く等、啓蒙活動を行なっている	倒壊を防止するよう呼びかけている	地震保険に加入するよう住民に働きかけている	外国人等の短期居住者の把握につとめている	とくに何もしていない
合　計	283	24.4	21.6	6.4	3.2	23.7
多	70	↑ 34.3	▲ 34.3	△ 12.9	5.7	↓ 14.3
中	71	25.4	∴ 28.2	2.8	1.4	↓ 14.1
少	140	∵ 19.3	▼ 12.1	5.0	2.9	△ 32.9

最後に高齢者や子ども等居住世帯に関する支援状況について確認する（表 2-2-17）。全体では「見守り等の声かけ」（54.4%）といった高齢者への対応が半数以上の項目であり、「災害時の避難支援」（35.3%）と「防犯のための巡回」（34.3%）は 3 割強となっていて、弘前市と比べても支援が進んでいるものとみうけられる。

活動リソース別の特徴をみると、「多」は「見守り等の声かけ」（70.0%）、「子どもの見守り」（50.0%）、「防犯のための巡回」（45.7%）、「高齢者などのいる世帯に対する情報交換」（41.4%）などが全体よりも高いものが多く、リソース「少」とは対照的な結果である。

表 2-2-17　高齢者・子ども等居住世帯への支援

	調査数	高齢者等が住む世帯への支援で現在実施していること							
		見守り・日常的な安否確認などの声かけ	災害時の避難支援・安否確認	防犯のための巡回	除雪の手伝い	子どもの登下校時の見守り	高齢者・障がい者・子どものいる世帯に関する情報交換	話し相手	日常生活に関する相談相手
合　計	283	54.4	35.3	34.3	29.7	28.3	24.7	24.0	21.6
多	70	▲ 70.0	∴ 42.9	△ 45.7	△ 42.9	▲ 50.0	▲ 41.4	↑ 32.9	27.1
中	71	57.7	39.4	35.2	31.0	28.2	21.1	28.2	25.4
少	140	▽ 45.0	∵ 30.0	↓ 27.1	↓ 22.1	▼ 17.9	↓ 18.6	↓ 17.9	17.1

	調査数	高齢者等が住む世帯への支援で現在実施していること							
		高齢者の生き甲斐・趣味活動の組織化	介護に関する相談相手	介護・医療サービスに関する情報提供	ごみ出し	育児・子育てに関する相談相手	高齢者のいる世帯を対象とするボランティア活動の支援	要介護者の介護	掃除・庭の手入れ
合　計	283	18.4	18.0	17.0	12.7	12.0	10.2	7.4	6.4
多	70	24.3	18.6	▲ 31.4	∴ 18.6	∴ 17.1	12.9	7.1	7.1
中	71	21.1	22.5	15.5	11.3	16.9	12.7	8.5	8.5
少	140	14.3	15.7	▽ 10.7	10.7	↓ 7.1	7.9	7.1	5.0

	調査数	高齢者等が住む世帯への支援で現在実施していること						
		外出への同行	手紙の代筆、電話かけ	買い物の手伝い・代行	食事の用意	幼稚園・保育所への送り迎え	新聞や本の代読	短時間の子守り
合　計	283	5.7	4.6	4.6	4.2	3.2	2.8	2.8
多	70	8.6	7.1	2.9	4.3	4.3	2.9	2.9
中	71	5.6	7.0	∴ 8.5	7.0	5.6	△ 7.0	4.2
少	140	4.3	∵ 2.1	3.6	2.9	1.4	∵ 0.7	2.1

(2) 町内会会長リソース

会長リソースの作成方法は(1)と同様であり、以下にそれを示す。

		会長在任年数		
		多	中	少
世帯の地付き	古	1	3	6
	中	2	5	8
	新	4	7	9

図2-2-2　会長セグメントの考え方

ここでの操作は活動リソースのように3つの変数ではなく、「会長の在任年数」と「会長家族の地付きの程度」という 2 つであるために、1 回のステップだけである。因みに「地付きの程度」であるが、松本・吉原 (2009) と同様に、「古」「中」「新」をそれぞれ「戦前」「昭和 20 年代～40 年代」「昭和 50 年代以降」としている。

こうした操作にて変数を作成して、そのリソース分布をみると、多 : 44.9%、中 : 27.6%、少 : 25.8%、不明 : 1.8% となった。

次に会長への手当てなどの支給状況について、役員定額手当てをみると（表 2-2-18)、八

戸市は「手当て有り」が 43.5%であり、弘前市に比べて 35pt 低い。会長リソース別での差をみると「少」の「なし」が全体より有意な差が出ている（多：53.5%、中：48.7%、少：65.8%）。活動ごとの手当てについては「無し」が 85.9%であり、これについては多：83.5%、中：87.2%、少：89.0%というように、弘前市と同様にリソース別での差はみられないが、弘前市よりもいずれも 10pt 程度高い結果になっている。

表2-2-18　会長手当て支給実績

	調査数	役員手当て（定額）		活動ごとの手当て	
		無し	有り	無し	有り
合　計	283	54.8	43.5	85.9	7.4
多	127	53.5	44.1	83.5	6.3
中	78	48.7	∴ 51.3	87.2	10.3
少	73	↑ 65.8	▽ 31.5	89.0	6.8

会長の手当てと持ち出しの割合では（表 2-2-19）、「持ち出しの方が多い」は 39.6：31.8%であり、八戸市の会長の持ち出しは弘前市の会長と同様に手当てよりも多いが、弘前市よりも約 8pt ほど高い。ちなみにリソース別で確認したところ、いずれも差はみられなかった。

表2-2-19　会長の手当て／持ち出し割合

	調査数	手当てと持出しの割合			
		手当ての方が多い	同じぐらい	持出しの方が多い	わからない
合　計	283	5.7	8.8	39.6	8.8
多	127	4.7	8.7	35.4	10.2
中	78	9.0	10.3	43.6	6.4
少	73	2.7	8.2	43.8	8.2

会長の選出方法について確認する（表 2-2-20）。八戸市町内会では「総会の話し合いで推された」（45.9%）が一番多く、「役員会での互選」（34.3%）や「前会長からの指名」（31.8%）が続くのは弘前市と同じである。また、リソース別で有意な差が確認できた項目はなく、会長選出方法と会長リソースには何らかの関係はないものと考えられる。

表 2-2-20　会長選出方法

	調査数	どのようにして会長に選ばれたか							
		総会の話し合いで推された	役員会での互選	前会長からの指名	選考委員会等による推薦	持ち回り（当番制）	総会で立候補	抽選（くじ引き）	その他
合　計	283	45.9	34.3	31.8	19.1	3.2	1.8	1.1	2.1
多	127	48.0	33.9	29.9	15.7	1.6	2.4	0.8	－
中	78	43.6	∵ 26.9	34.6	24.4	5.1	2.6	1.3	2.6
少	73	45.2	∴ 42.5	31.5	20.5	4.1	－	1.4	△ 5.5

町内会長の1任期（表2-2-21）は「二年」の73.1%が一番多く、8割前後である弘前市や青森市に比べてやや低い結果である。また、「1年」は15.2：8.9%と弘前市よりもやや高い。リソース別では差があまり見受けられず、弘前市と同様に任期の長さと会長のリーダーシップ形成はあまり関係がないように思われる。

表2-2-21　会長任期

	調査数	会長の1 任期は何年か						
		半年	一年	二年	三年	三年より長い	決まっていない	わからない
合　計	283	－	15.2	73.1	2.5	1.1	7.8	0.4
多	127	－	12.6	74.0	3.1	－	9.4	0.8
中	78	－	14.1	75.6	1.3	∴ 2.6	6.4	－
少	73	－	∴ 21.9	67.1	2.7	1.4	6.8	－

予算案作成方法について確認すると（表 2-2-22）、一番多いのは「担当役員が素案を示し、役員会で審議、作成」（45.9%）であり、他の市と同様の傾向である。

また、会長リソースが少ない町内会で「担当役員が素案を示し、役員会で審議、作成」（63.0%）が多いのは弘前市と同様な結果である。また、会長リソース「中」で「担当役員がすべて作成」（25.6%）が多い結果になっているのは、弘前市などと比べても八戸市では会長のリーダーシップが弱い場合、予算作成には「より」一定の距離を置いていることがうかがえる。

表2-2-22　予算案作成方法

	調査数	町内会の予算案はどのように作成されているか						
		担当役員が素案を示し役員会で審議し、作成	会長が素案を示し役員会で審議の上、作成	担当役員がすべて作成	役員会で協議して一から作成	会長がすべて作成	その他	作成していない
合　計	283	45.9	37.1	16.6	14.1	11.0	2.5	1.1
多	127	↓ 37.8	∵ 31.5	15.0	16.5	12.6	1.6	1.6
中	78	43.6	43.6	△ 25.6	11.5	12.8	2.6	－
少	73	▲ 63.0	42.5	∵ 11.0	11.0	∵ 5.5	4.1	1.4

会長が抱く町内会の未来イメージをみると（表 2-2-23）、会長全体の約 4 割が「地域社会の役割が高まる」と回答しており、八戸市は半数未満ではあるものの、弘前市や青森市、秋田市、盛岡市、いわき市と同様に、町内会の重要性が高まると考える会長が多いようだ。

表2-2-23　会長が抱く町内会の未来イメージ

	調査数	地域社会での役割					
		高まる	変わらない	低下する	その他	わからない	不　明
合　計	283	42.0	34.6	11.3	1.1	9.2	1.8
多	127	38.6	33.1	14.2	0.8	11.0	2.4
中	78	46.2	34.6	9.0	∴ 2.6	7.7	－
少	73	46.6	39.7	∵ 5.5	－	8.2	－

会長は町内会と行政との関係をどう考えているのだろうか（表 2-2-24）。行政との関係は「これからは強くなる」と回答する人は36.7%であり、弘前市ではほぼ半数の会長が行政との関係強化を想定しているのに対して、八戸市では4割未満と町内会長がややネガティブなイメージを抱いていることが確認できる。また、リソースによる差異はさほどみられない。

表2-2-24　会長が考える行政との今後の関係

	調査数	これからの市行政との関係について				
		強くなる	弱くなる	どちらともいえない	わからない	不　明
合　計	283	36.7	4.9	44.2	12.0	2.1
多	127	33.9	7.1	43.3	14.2	1.6
中	78	42.3	5.1	39.7	11.5	1.3
少	73	38.4	∵ 1.4	∴ 52.1	∵ 6.8	1.4

最後に会長が考える町内会組織の未来像について確認する（表 2-2-25）。一番多かったのは、「地縁的組織の代表的組織として存在」（45.9%）であり、他の市とはやや少ない弘前市よりもさらに少ない5割未満の回答であった。また、リソース別では「少」で「わからない」（16.4%）となっており、ここでも会長は町内会にあまり明るい未来像を抱いていないことがうかがえる結果になった。

表2-2-25　会長による町内会組織未来像

	調査数	今後の町内会はどんな組織になるか			
		地縁的組織の代表的組織として存在	地縁的組織の代表的組織ではなくなる	その他	わからない
合　計	283	45.9	16.6	3.9	28.3
多	127	40.9	18.1	3.1	33.1
中	78	48.7	11.5	3.8	30.8
少	73	∴ 54.8	19.2	5.5	▽ 16.4

次に会長の基本属性について確認する（表 2-2-26）。性別について、他の市と同様に会長の 9 割以上の男性であり、年代も 60 代以上が 92.2%と、弘前市と同様に他の市よりも会長の高齢化が進んでいる。また、リソースが多いほど会長の年齢が高いのは他の市と同様な傾向である。

表 2-2-26　会長の性別・年齢

	調査数	会長の性別		会長の年齢						
		男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上
合　計	283	96.5	3.2	−	0.4	0.7	6.4	46.6	39.9	5.7
多	127	96.9	3.1	−	−	0.8	3.9	∵ 40.2	44.1	▲ 11.0
中	78	97.4	2.6	−	−	−	3.8	52.6	42.3	↓ 1.3
少	73	98.6	1.4	−	∴ 1.4	1.4	△ 13.7	52.1	↓ 30.1	∵ 1.4

会長宅の家族構成を確認すると（表 2-2-27）、「非高齢者と高齢者からなる親族世帯」（34.6%）がとボリュームゾーンとなっているのは弘前市と同様な傾向であるが、他の市（いわき市を除く）とは異なる傾向である。リソース別では「多」が「二世代以上がともに居住」（14.2%）、「少」で「非高齢者のみの核家族世帯」（28.8%）がそれぞれ全体に対して有意に大きいことから、八戸市町内会では家族構成と会長リソースには一定の関連性があることをうかがわせる結果である。

表2-2-27　会長宅の家族構成

	調査数	会長の家の家族構成						
		非高齢者のみの核家族世帯	高齢者のみの核家族世帯	非高齢者と高齢者からなる親族世帯	非高齢者の単身世帯	高齢者の単身世帯	二世帯以上がともに居住	その他
合　計	283	18.4	30.7	34.6	0.7	3.9	9.2	1.4
多	127	∵ 13.4	31.5	35.4	0.8	3.9	↑ 14.2	−
中	78	17.9	35.9	35.9	−	3.8	5.1	1.3
少	73	△ 28.8	26.0	31.5	1.4	4.1	∵ 4.1	2.7

会長が兼務する役職数を確認することにする（表 2-2-28）。八戸市は全体平均で兼職は約 4 つであり、青森市や盛岡市の 4 つとほぼ同じであり、弘前市に比べると 1 つ多い。リソース別では差がみられず、過去の役職個数も同様な結果である。兼務する役職数に限っていえば、少なくとも八戸市の過去と現在においては、他の市でもみられるような会長への「トップ・ヘヴィ」の状況にはないように思われる。

表2-2-28　各市会長が兼務する役職数

	調査数	現在の役職個数	過去の役職個数
合　計	283	3.68	2.42
多	127	3.77	2.54
中	78	3.69	2.23
少	73	3.63	2.48

最後に会長が個人的に関わっている地域活動を確認する（表 2-2-29）。一番多いのは「地域の任意団体の活動に積極的に顔を出している」（44.2%）であり、次いで「特に何もしていない」（34.3%）であるのは弘前市と同様である。リソース別でみると、他市ではリソースの少ない会長は「何もしていない」が多いのだが、八戸市ではさほど大きな差になっていない（多：33.1%、中：37.2%、少：35.6%）のは弘前市と同じである。逆に会長リソースが「中」で「任意団体が活動しやすいように調整等をしている」（28.2%）というように、このリソースの多寡による正の相関は確認できなかった。

表 2-2-29　会長が個人的に関わっている地域活動

	調査数	会長としての正規の仕事以外に個人的に地域活動に関わっているか						
		とくに何もしていない	地域の任意団体の活動に積極的に顔を出している	地域の任意団体が活動しやすいように調整等をしている	ポケット・マネーで地域の団体や活動を支援している	自らが発起人となって地域イベントを開催している	自らが発起人となり地域組織・NPOなどを立ち上げている	その他
合　計	283	34.3	44.2	20.5	9.9	7.4	0.7	7.8
多	127	33.1	42.5	18.1	11.0	10.2	0.8	9.4
中	78	37.2	41.0	↑ 28.2	11.5	7.7	−	7.7
少	73	35.6	49.3	17.8	6.8	▽ 1.4	1.4	5.5

2.3 八戸市町内会のリソース分布

ここでは前節で確認した町内会に関する「活動リソース」と「会長リソース」をかけあわせた「町内会リソース」を作成し、その分布をみていくことにする。ここで、2.2 で議論した会長リソースと活動リソースの「多」、「中」、「少」のそれぞれに「3」、「2」、「1」と得点化した上で、各地区別に両リソースを集計し偏差値化したものが表 2-3-1 になる。

表 2-3-1　21 地区別でみた各リソース偏差値

	活動	会長	セグメントン		活動	会長	セグメントン
三八城	46.8	59.0	2	市川	53.5	44.7	4
柏崎	52.5	47.2	4	館	53.9	63.8	1
吹上	51.3	52.7	1	豊崎	36.8	24.7	3
長者	39.8	49.9	3	大館	58.9	49.9	4
小中野	51.5	57.9	1	下長	70.1	35.8	4
湊	49.3	52.7	2	南浜	56.7	66.7	1
白銀	50.9	45.7	4	島守	39.6	39.6	3
鮫	46.8	56.2	2	中野	41.8	61.5	2
根城	62.7	40.5	4	市野沢	36.8	42.2	3
是川	43.4	50.4	2	鳩田	36.8	56.2	2
上長	70.1	52.7	1				

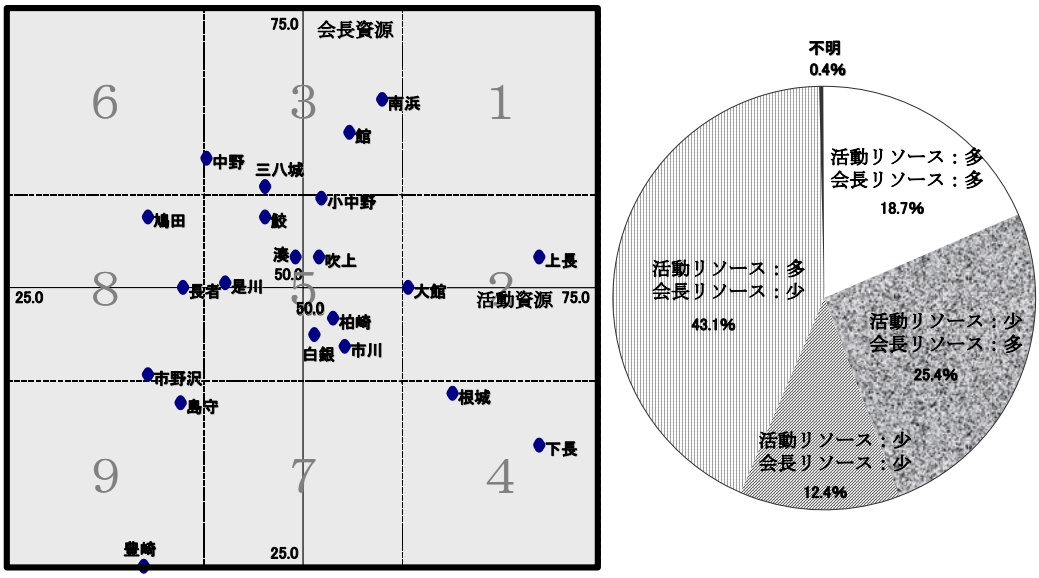

図 2-3-1　八戸市町内会の 21 地区別リソース分布とその比率(N=283)

そして、この偏差値 50.0 を境界にして「多」「少」として、その組み合わせをセグメント 1～4 としている。そうした操作によって得られた各リソースの構成比をみると、(活動リソ

ース、会長リソース）が（多、多）は 18.7%、（少、多）は 25.4%、（少、少）は 12.4%、（多、少）は 43.1%、不明は 0.4%である。

第一象限（多、多）では上長、南浜、館、小中野、吹上地区が該当し、第二象限（少、多）は三八城、鮫、湊、中野、鳩田、是川地区があり、第三象限（少、少）に長者、市野沢、島守、豊崎地区、第四象限（多、少）においては大館、柏崎、白銀、市川、根城、下長地区となっている。

以上のように 21 地区による分類を行ったが、冒頭でも論じたように以下では『八戸市都市計画マスタープラン』（平成 16 年 3 月）で示された 11 地域で分析を進めていくことにする。先と同様な集計をすると以下の通りである。

表 2-3-3　11 地域別でみた各リソース偏差値

	活動	会長	セグメント		活動	会長	セグメント
市川地域	49.7	47.5	3	湊・白銀・鮫地域	45.9	52.6	2
下長地域	64.5	39.6	4	南浜地域	52.5	67.3	1
豊崎地域	34.6	29.6	3	大館地域	54.5	52.2	1
八戸駅周辺地域	64.5	54.7	1	館・是川地域	44.6	57.9	2
中央地域	44.6	55.6	2	南郷区	36.6	49.4	3
根城・田面木・新都市	57.9	43.7	4				

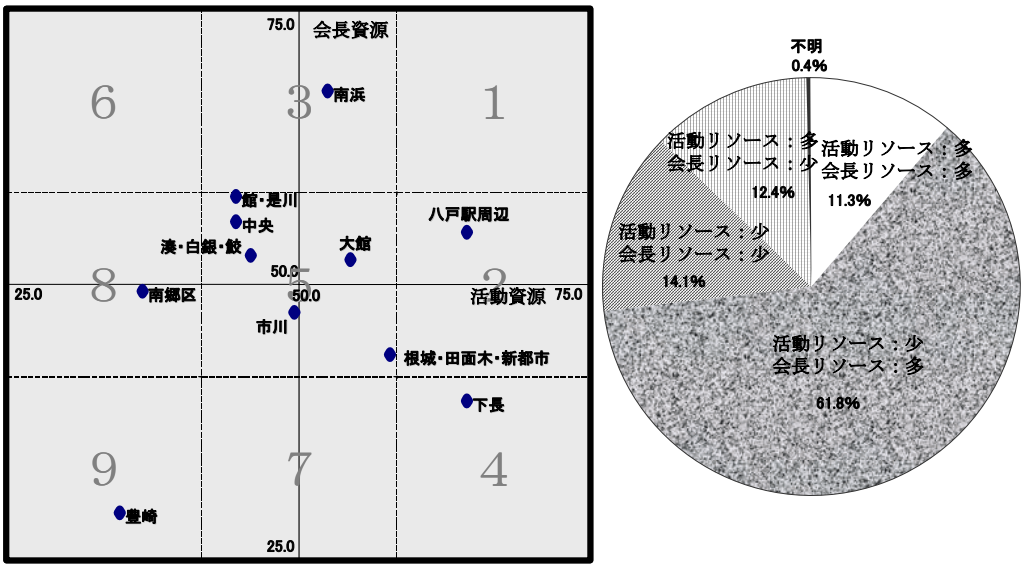

図 2-3-2　八戸市町内会の 11 地域別リソース分布とその比率(N=283)

各セグメントが抱える課題をみる前に、それらの基本属性を確認する（表 2-3-2）。加入世帯数について、（多、多）は 205 戸、（少、多）は 114 戸、（少、少）は 81 戸、（多、少）は

291 戸となっている。また、世帯加入率については（多、少）が 69.1%と最も少ないのは弘前市と同様な結果であった。

表 2-3-2　セグメント毎の加入世帯数・加入率

	加入世帯数		世帯加入率	
	調査数	戸	調査数	平　均
合　計	281	141.08	269	77.84
活動:多、会長:多	31	▲ 205.16	31	81.45
活動:少、会長:多	175	▼ 113.73	166	↓ 75.24
活動:少、会長:少	39	▼ 81.41	39	▲ 92.69
活動:多、会長:少	35	▲ 291.17	32	▼ 69.06

町内会の発足時期であるが（表 2-3-3）、セグメントで特徴があるのは（多、多）で「1960 年代」（28.1%）、（少、多）で「40 年代以前」（33.7%）、（多、少）は「70 年代」（25.7%）である。これらから、会長リソースが多い町内会ほど、古いまたは発足時期が不明の町内会が多い傾向にある。

表 2-3-3　セグメント毎の町内会発足時期

	調査数	町内会発足時期							
		1940年代以前	1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	わからない
合　計	283	27.6	11.7	16.6	10.6	9.9	2.8	3.2	17.7
活動:多、会長:多	32	▽ 9.4	15.6	↑ 28.1	∵ 3.1	6.3	–	3.1	△ 34.4
活動:少、会長:多	175	↑ 33.7	13.7	16.6	8.6	9.1	4.0	∵ 1.1	∵ 13.1
活動:少、会長:少	40	27.5	∵ 5.0	▽ 5.0	12.5	10.0	2.5	2.5	▲ 35.0
活動:多、会長:少	35	▽ 11.4	5.7	20.0	▲ 25.7	∴ 17.1	–	▲ 14.3	↓ 5.7

町内会の予算規模をみる（表 2-3-4）。収入では（多、少）町内会の予算規模が一番大きく、弘前市と同様な傾向にあることがわかる（多×多：146 万円、少×多：98 万円、少×少：80 万円、多×少：190 万円）。支出も同様の傾向で（多、少）が大きい（多×多：146 万円、少×多：98 万円、少×少：86 万円、多×少：190 万円）。

表2-3-4　セグメント毎の町内会予算規模

	収入（総額）		支出（総額）	
	調査数	千円	調査数	千円
合　計	234	1141.61	230	1157.14
活動:多、会長:多	29	△ 1462.31	29	△ 1463.34
活動:少、会長:多	140	▼ 977.81	139	▼ 984.49
活動:少、会長:少	31	▽ 803.39	28	▽ 855.04
活動:多、会長:少	33	▲ 1903.97	33	▲ 1903.67

2.4 セグメントでみた八戸市町内会の課題

次に町内会運営上の課題を 4 セグメントの視点で確認する。セグメントに特徴的な項目をみると（表 2-4-1）、（多、多）では「役員のなり手不足」（93.8%）、「予算の不足」（37.5%）、「単身世帯数の多さ」（12.5%）が多く、他のセグメントでは（少、少）で「経験や知恵が足りない」（15.0%）、（多、少）に「未加入世帯の増加」（54.3%）や「留守の世帯が多い」（25.7%）が有意に大きいことがわかる。

表 2-4-1　セグメント別でみた町内会運営上の困りごと

	調査数	町内会の運営上困っていること							
		町内会の役員のなり手不足	会員の高齢化	町内会行事への住民の参加の少なさ	未加入世帯の増加	行政以外の団体との関係（負担金等）	町内会のルールを守らない住民の存在	加入世帯の家族構成が把握できない	予算の不足
合　計	283	81.3	72.4	67.1	35.7	25.4	20.5	20.1	19.4
活動：多、会長：多	32	↑ 93.8	71.9	68.8	37.5	15.6	18.8	∴ 31.3	▲ 37.5
活動：少、会長：多	175	79.4	75.4	67.4	38.3	28.6	18.9	17.1	16.0
活動：少、会長：少	40	75.0	72.5	▽ 52.5	▼ 7.5	25.0	20.0	17.5	∴ 27.5
活動：多、会長：少	35	85.7	↓ 60.0	∴ 80.0	△ 54.3	17.1	∴ 31.4	28.6	11.4

	調査数	町内会の運営上困っていること							
		行政との関係（依頼の多さ等）	集会施設がない／狭い／不便	日中、留守の世帯が多い	他の町内会との交流が少ない	まとめ役がいない、力不足	世代間のズレ	運営のための経験や智恵が足りない	構成世帯数の少なさによる障害
合　計	283	19.1	18.0	13.8	13.4	10.2	8.5	7.4	5.3
活動：多、会長：多	32	18.8	12.5	6.3	9.4	12.5	6.3	6.3	－
活動：少、会長：多	175	18.9	21.1	10.9	14.9	10.3	9.1	6.3	5.7
活動：少、会長：少	40	17.5	↓ 7.5	∴ 22.5	17.5	15.0	5.0	↑ 15.0	∴ 10.0
活動：多、会長：少	35	20.0	17.1	△ 25.7	∵ 5.7	∵ 2.9	11.4	5.7	2.9

	調査数	町内会の運営上困っていること							
		住民間の摩擦	単身世帯数の多さによる障害	伝えるべき情報が伝わっていない	どんな情報を伝えればよいかわからない	家族世帯数の多さによる障害	町内会の財産をめぐるトラブル	役員内のあつれき	困っていることはない
合　計	283	4.2	3.9	2.1	1.4	1.1	0.7	0.4	1.8
活動：多、会長：多	32	－	△ 12.5	3.1	－	3.1	－	－	－
活動：少、会長：多	175	4.6	2.3	2.9	2.3	1.1	0.6	0.6	2.3
活動：少、会長：少	40	5.0	2.5	－	－	－	∴ 2.5	－	2.5
活動：多、会長：少	35	5.7	5.7	－	－	－	－	－	－

次に町内会における生活上の困りごとについて確認する（表 2-4-2）。（多、多）では「ひとり暮らしの高齢者への対応」（65.6%）や「移動や交通の問題」（50.0%）が、（少、少）で「開発による住環境や自然環境の悪化」（15.0%）が多いのに対して、（多、少）においては「ゴミ処理の問題」（80.0%）、「ひとり暮らしの高齢者への対応」（74.3%）、「文化交流施設の不足等」（34.3%）等、多様である。これは弘前市と同様に、活発であるものの会長のリーダーシップの弱い町内会で、生活上の問題が顕在していることが推察できる。

表 2-4-2　セグメント別でみた町内会における生活上の困りごと

	調査数	町内会で、ここ数年地域生活を営む上で困った問題があったか（現在あるか）						
		ゴミ処理の問題	ひとり暮らしの高齢者への対応	移動や交通の問題	集会所・図書館等文化交流施設の不足・老朽化	住民間のトラブル	治安・少年非行・風紀の悪化	公園・運動場・体育施設等の不足
合　計	283	65.0	49.8	36.0	17.7	16.3	13.1	10.2
活動：多、会長：多	32	71.9	↑ 65.6	↑ 50.0	25.0	12.5	18.8	15.6
活動：少、会長：多	175	68.6	45.7	↓ 29.7	∵ 13.1	16.6	∵ 9.7	7.4
活動：少、会長：少	40	▼ 30.0	↓ 35.0	42.5	17.5	10.0	12.5	10.0
活動：多、会長：少	35	↑ 80.0	▲ 74.3	45.7	△ 34.3	∴ 25.7	△ 25.7	↑ 20.0

	調査数	町内会で、ここ数年地域生活を営む上で困った問題があったか（現在あるか）						
		都市型災害に対する基盤整備の不足	幼児虐待などの子育て上の問題	行政とのトラブル	開発による住環境や自然環境の悪化	ワンルーム・マンション増加等の住宅問題	商店・スーパー等の買い物施設の不足	土地問題（土地利用規制や共有地）
合　計	283	9.5	8.5	8.1	7.4	6.7	6.4	6.0
活動：多、会長：多	32	9.4	12.5	3.1	9.4	6.3	9.4	3.1
活動：少、会長：多	175	7.4	6.9	8.6	6.3	6.3	7.4	6.9
活動：少、会長：少	40	5.0	10.0	7.5	↑ 15.0	2.5	5.0	5.0
活動：多、会長：少	35	▲ 25.7	11.4	11.4	2.9	↑ 14.3	－	5.7

	調査数	町内会で、ここ数年地域生活を営む上で困った問題があったか					
		病院や老人福祉センター等医療・福祉施設の不足	保育園・学校等育児・教育施設の不足	民間企業とのトラブル	商店や工場を経営していく上での障害	その他	困っていることはない
合　計	283	4.6	4.2	2.1	1.4	4.6	11.0
活動：多、会長：多	32	3.1	3.1	3.1	－	6.3	9.4
活動：少、会長：多	175	4.0	2.9	1.7	1.7	4.0	10.9
活動：少、会長：少	40	5.0	5.0	5.0	2.5	7.5	↑ 20.0
活動：多、会長：少	35	8.6	△ 11.4	－	－	2.9	∵ 2.9

最後にセグメント毎の会長が負担に感じるものについて確認する（表 2-4-3）。（多、少）で「町内会単位の仕事・付き合い」（54.3%）が多く、これは先の「トップ・ヘヴィ」にあるように、活動量の多さがリソースの少ない町内会長に対して特に負担感を抱かせていることをうかがわせる結果となっている。

表2-4-3　セグメント別でみた負担に感じるもの

	調査数	負担に感じるもの			
		町内会単位の仕事・付き合い	町内会連合会単位の仕事・付き合い	行政からの依頼仕事	その他
合　計	283	32.9	39.9	34.6	10.6
活動：多、会長：多	32	∴ 43.8	46.9	43.8	6.3
活動：少、会長：多	175	29.7	∵ 34.3	32.6	10.3
活動：少、会長：少	40	30.0	45.0	27.5	12.5
活動：多、会長：少	35	40.0	↑ 54.3	42.9	14.3

2.5 地区別にみた諸問題の解決に向けた町内会の役割

本節では、八戸市町内会が抱える諸問題を「地域別」という地理的特性の次元でとらえ、問題解決の方途を探る。

(1) リソースの地理的特性

図 2-3-1 と図 2-5-1 について、まずは両極の第一象限（多、多）と第三象限（少、少）を確認する。（多、多）に分類される地区は八戸駅周辺、大館、南浜である。一方で（少、少）は市川、豊崎、そして併合された南郷である。その他に（少、多）は湊・白銀・鮫、中央、館・是川であり、（多、少）は下長や根城・田面木・新都市地域である。

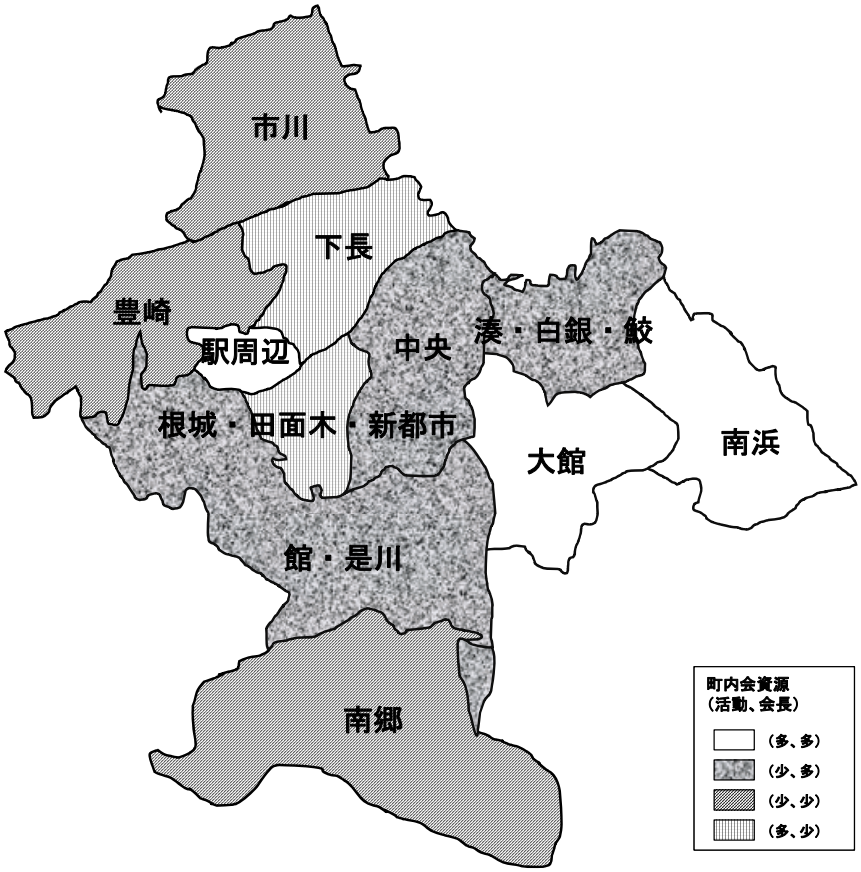

図2-5-1 4セグメントの布置状況（八戸市提供資料等より筆者作成。地区境界が正確でない部分もある）

地理的な布置状況から、市中心～北部に位置する市川や豊崎は両リソースが少ない。また、本八戸駅と中心市街地がある中央や漁港がある湊・白銀・鮫、是川団地などがある館・是川では会長リソースが多い。八戸港がある下長、八戸ニュータウンが地域南側に位置する根城・

田面木・新都市でが活動リソースが多い。歴史文化資源が多い大館や種差海岸がある南浜では八戸駅周辺と同様に両リソースが多い。また、合併した南郷区は両リソースが少ない結果になっている。地域単位での集計なので一概にいえるものではないものの、八戸市の場合はリソース分布が類似した地域同士で隣接している。さらにいえば、活動リソースが多い地域は八戸駅周辺を東側から接するかたちで分布しており、会長リソースが多いのは両リソースが多い駅周辺や大館・南浜に挟まれるかたちに、そして中心から離れた地域では両リソースが少ない地域が位置している。

今後の詳細な経済的・社会的・文化的な要素をふまえた分析が必要であるものの、現時点では活動と地理的特性に何らかの関係があるといえるのではないか。

(2) 地区別の問題の解決に向けて

これまで町内会を活動と会長のリソースで、また 2 つの軸によってつくられるセグメントにより、町内会自身の活動や問題点などを類型化した。問題解決の方向性を見出すにあたって、まずはセグメント毎の課題と解決の方向性をまとめる。

八戸市町内会の課題と問題解決の方向性をまとめると、次の図 2-5-2 のように示すことができる。町内会全体の困りごとは「役員のなり手不足」、「会員の高齢化」、「行事に対する住民参加が少ない」であり、生活上の問題点は「ゴミ処理」、「ひとり暮らしの高齢者への対応」「移動や交通」であるのは弘前市とほとんど変わらない共通した課題である。これらに対しては、いわゆる「トップ・ヘヴィ」となって集中する会長や役員への負担軽減を行うことや、様々な世代が参加可能な行事・イベント等の活動を増やし、若い世代の認知と関心を高めること、またこれら活動の場所としての施設の充実が必要なのは弘前市と同様である。

次に活動リソース×会長リソースによるセグメントの視点で確認する。

（多、多）の町内会では、運営上の問題としてあがるのは「役員のなり手不足」、「予算の不足」、「単身世帯の多さによる障害」であり、生活上の問題は「ひとり暮らし高齢者への対応」や「移動や交通の問題」である。これについてはまず、現役世代に対する活動参加の仕組みづくり、そしてネットなどを活用した単身世帯への連絡方法の工夫が求められよう。

（多、少）で特徴的な町内会運営上の問題は「未加入世帯の増加」と「留守の世帯が多い」であり、生活上の問題は「ゴミ処理」、「ひとり暮らし高齢者への対応」、「文化交流施設の不足」、「災害に対する基盤整備の不足」である。生活上の問題の後二者についてはインフラの問題なのでさておくとして、運営上の問題解決には世帯を把握するための工夫が求められるといえる。

（少、少）における運営上の問題は「運営のための経験や知恵が足りない」、生活上の問題は「開発による住環境・自然環境の悪化」という結果であった。町内会でさしあたり対応できるものは前者であるが、町内においてはいわゆる「暗黙知」の表出による形式知化への取り組みとともに、町外に目を向ければ、他町内会との連携による活動事例等の共有から学ぶ姿勢も必要といえる。

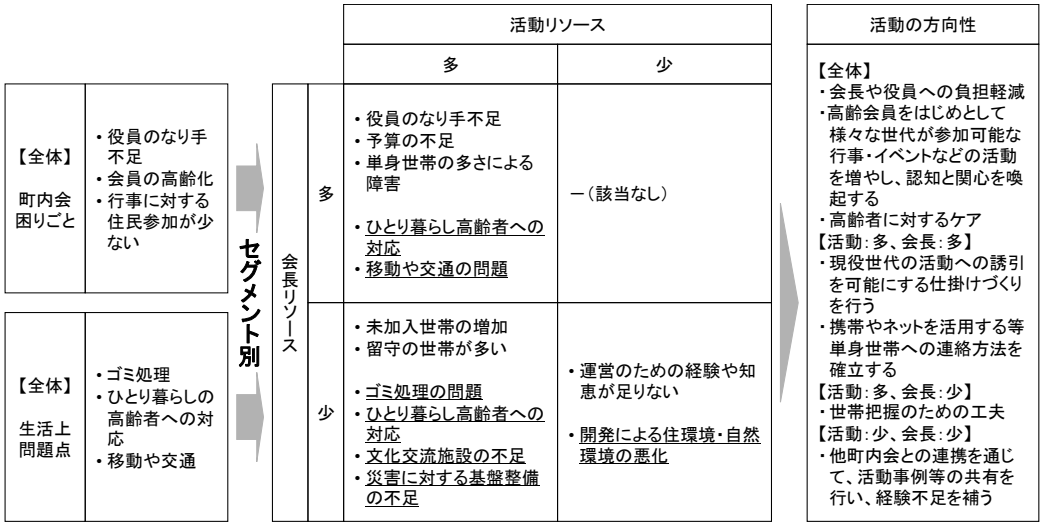

図 2-5-2　八戸市町内会の課題と問題解決の方向性(下線は生活上の問題)

以上のように、八戸市町内会も弘前市や他市の町内会と同様に、いくつかのセグメントにより抱える課題が異なることを明らかにした。セグメントの視点で分析することによって、その問題解決への対応が異なることを明確にし、より効果的な施策をとることのできる可能性を高められるだろう。

参考文献

八戸市 HP『八戸市人口データ』　(平成 25 年度)
http://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/8,58719,35,463,html

松本行真、吉原直樹、2009、「町内会における諸問題の解決法に関する一考察」『ヘスティアとクリオ』No.8：19-51

松本行真、2010、「福島市町内会における問題の所在」『地方都市における町内会の変容とその諸相―2009 年福島市町内会・町内会調査結果報告書―』東北都市社会学研究会編：21-48

松本行真、2011a、「盛岡市町内会における問題の所在」『地方都市における町内会の現状とゆくえ―2010 年度盛岡市町内会・町内会調査結果報告書―』東北都市社会学研究会編

松本行真、2011b、「地域リーダーの防災観」吉原直樹編著『防災コミュニティの基層』御茶の水書房

松本行真、2011c、「防災コミュニティの人的資源と活動資源」吉原直樹編著『防災コミュニティの基層』御茶の水書房

松本行真、2012、「弘前市町会における問題の所在」『地方都市における問われる町会の存在意義―2011 年度弘前市町内会・自治会調査結果報告書』東北都市社会学研究会